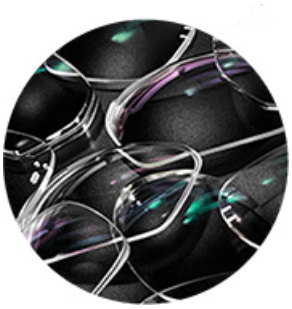
ヘルスケア関連製品

メガネレンズ



事業内容

メガネレンズの研究開発・製造・販売をおこなっています。

一般的な単焦点のメガネレンズはもちろん、手元から遠方までシームレスに見えるように度数が変化する累進多焦点レンズや、屋外では太陽光で半透明に、室内では透明にレンズの色が変わる調光レンズなど、幅広いライフステージや生活シーンに対応したレンズ製品を取り扱っています。

地域別では欧州、次いで米州の売上高が大きく、海外売上高比率は約9割にのぼります。

サプライチェーン

マーケット状況

今後、世界的な老齢人口の増加、新興国の経済成長による購買力の増加、目の健康に対する意識の高まりや、デジタル機器の使用時間の増加による視力の低下などにより、メガネレンズの需要は継続して世界的に増加し、中長期的に一桁前半の市場成長を想定しています。

新型コロナウイルスの影響に関しては、各国におけるワクチン接種の進捗と経済活動の再開に伴い、事業の正常化が進んでいます。

ウクライナにおける紛争に関しては、当社は東ヨーロッパ（ロシア、ウクライナ、ベラルーシ）において事業活動を行っており、現在はロシアにおける事業を一時的にヘルスケア関連のものに限定し、国際貿易制限の範囲内で事業活動をおこなっています。2021年度においてメガネレンズ製品の当3国における売上収益が同製品グローバルの売上収益に占める割合は1%でした。

なお、当社はウクライナに対して人道支援をおこなっています。詳しくはこちらをご覧ください。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

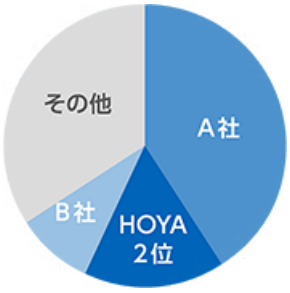
HOYAのポジションと市場シェア

地域により成長速度は異なりますが、成熟市場である北米、欧州、日本は引き続き市場の中で重要な役割を果たすと想定しています。また、南米やアジアなどの新興国では、視力矯正製品がより入手しやすくなり、また中間所得層人口が増加する中で、さらなる成長が期待されます。

当社は業界2番手であり、オーガニック成長に加え、2013年にSEIKOのメガネレンズ部門、2017年には米Performance Optics社など、M&Aにより市場シェアを拡大しています。

地域別売上高構成比
（2021年度）

市場シェア（2021年度）



（当社推計、金額ベース）

HOYA今後の見通し

メガネレンズは、ライフケア事業売上の約50%を占める製品であり、事業の拡大をけん引する成長ドライバーです。

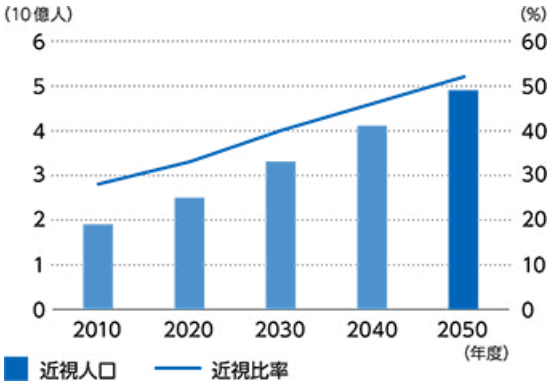
市場成長の続くアジア（特に中国）や、南米において営業活動を強化し、市場シェアの拡大を図っていきます。また、独立系のメガネ店への売上比率が高い米州において、チェーン店への拡販をおこない、市場シェアの拡大を図っていきます。ターゲットエリアとビジネス機会への注力により市場以上の一桁前半から半ばのオーガニック成長を目指します。また、さらなる成長のためのM&Aの機会を引き続き追求していきます。

生産面では、拡大する需要への対応や生産地の多様化のためにグローバルに投資をおこなっています。

近視の急速な進行は世界的な健康課題となっています。2050年には世界人口の半分にあたる50億人が近視の影響を受ける可能性があると言われています。

近視進行抑制分野においてHOYAは香港理工大学と共同で革新的な小児用近視進行抑制メガネレンズ「MiYOSMART」を開発しました。「MiYOSMART」は、子供の近視の進行を抑制することが実証されています。2018年に商品化され、現在はアジア欧州を中心に販売しており、大きな成長が続いています。今後は順次認可を取得し、販売地域を拡大していく予定です。
（2022年8月現在、日本・米国では未承認です。）

近視人口の推移予測



MiYOSMART

出典：Holden B. A. et al. Global Prevalence of Myopia and High Myopia and Temporal Trends from 2000 through 2050. Ophthalmology. 2016 May;123(5):1036-1042

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

コンタクトレンズ小売

事業内容

コンタクトレンズ専門小売店「アイシティ」を日本国内において展開しています。

「アイシティ」では、お客様一人ひとりに合った最適な商品をご提案するコンサルティング販売と、世界中の大手メーカーから取りそろえた幅広い商品ラインアップを強みとしています。

店舗は駅の近くや、ショッピングセンター内など、利便性の高い立地にて展開しています。

マーケット状況

国内コンタクトレンズ小売市場はコロナの影響による在宅勤務や自宅学習機会の増加、外出機会の減少などによりコンタクトレンズの使用頻度が減少したことで一時的に市場が縮小しましたが、新型コロナウイルスの感染状況が一進一退を繰り返しており、注意を要する状況ではあるものの、店舗のトラフィック増加により販売が堅調に推移しています。（今後、行動制限などがあった場合にはマイナスの影響が予想されます）

今後の市場見通しについては、若年層の近視率の上昇や遠近両用コンタクトレンズの普及による装用者年齢の上昇といったコンタクトレンズ需要増加、高付加価値レンズの販売増による平均販売単価の上昇などにより、今後も僅かながら拡大していくと推定しています。

販売チャネル別には、インターネット通販がシェアを拡大、コンタクトレンズ専門店のシェアについては安定的に推移すると見込んでいます。

販売チャネル別売上高
構成比（2021年度）

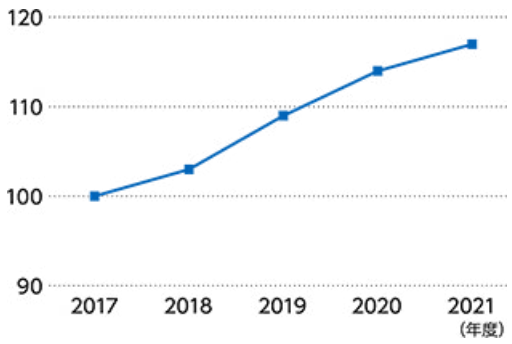
コンタクトレンズ専門店での
HOYAのシェア
（当社推計、金額ベース）

HOYAのポジションと市場シェア

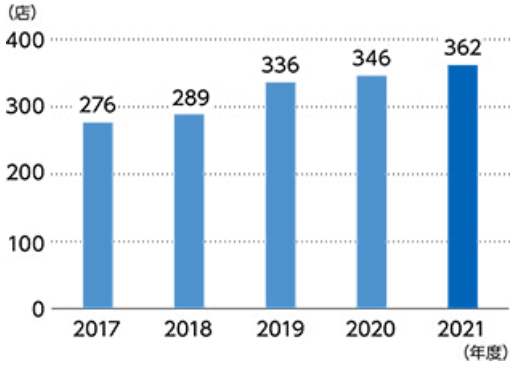
当社は、実店舗での販売を行う小売チャネルにおいてシェア1位となっています。

付加価値製品の訴求などによる既存店の売上成長に加えて、M&Aを含む新規出店により売上の拡大を図っています。また、近年拡大しているインターネット通販に対応し、「ほしいとき便」「おトク定期便」としてオンライン販売サービスを提供しており、特にコロナ感染拡大期において多くの方々にご利用いただいています。

お客様一人当たり単価推移（2017年度を100とする）



国内アイシティ店舗数推移



 Copyright ©2021 HOYA GROUP

HOYA今後の見通し

今後については、高付加価値品の拡販や市場ニーズの高い宅配サービスの訴求などによる既存店の売上成長とともにM&Aを含む新規出店により、継続的に5%程度の売上成長を図っていきます。

新規出店時には、コンタクトレンズ装用人口、市場成長率、競合状況を切り口に地域を細かく分析し、都心部や地方都市、大型ショッピングセンターを中心に出店をおこなうとともに、同一商圏内での店舗移動を適宜実施することで効率性を向上していきます。また、地域に根ざしたコンタクト専門店などを対象としたM&Aの機会を積極的に活用し、成長を加速させていきます。

インターネット通販に関しては、市場ニーズの高まりを受け、消費者に対して定期的もしくは必要に応じて注文できる宅配サービスを訴求していきます。また、今後もシェア拡大を見込むインターネット通販チャネルへの対応の検討を開始しています。

メディカル関連製品

医療用内視鏡

事業内容

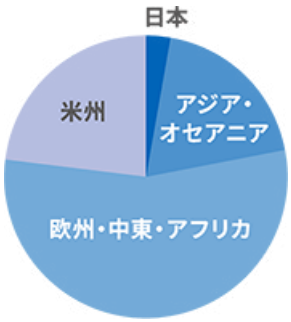
消化器、耳鼻咽喉、呼吸器などの検査や処置に使われる医療用の軟性内視鏡の研究開発・製造・販売をおこなっています。

サプライチェーン

地域別売上高

地域別に見ると、欧州をはじめとする海外での売上高が大部分を占めています。

地域別売上高構成比（2021年度）



マーケット状況

社会の高齢化に伴い、世界的に医療費が増加しています。 各国政府は、医療費増加の抑制のために、疾病の早期発見および低侵襲医療を推奨しています。
また、患者様の体にメスを入れずに体への負担を極力抑える低侵襲治療へのニーズから、内視鏡に対する注目が高まっています。

内視鏡機器市場は、日米欧などの先進国地域において成長が緩やかになっていますが、内視鏡の普及段階にあるアジア、特に中国において高い成長が続いています。中国市場に関しては、今後もグローバル市場の成長をけん引するという見方に変わりありませんが、中国政府機関による入札で中国国産製品を優先する政策が進められており、中国外の医療機器メーカーは現地生産を求められています。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

2021年度は医療機関の投資意欲回復や新型コロナウイルスからの反動増などで市場の成長が続いていますが、世界的な電子部品の供給不足により内視鏡の需給がタイトになっています。半導体の供給量は徐々に増えていますが、不安定な状況です。

中長期にグローバルで7%前後の内視鏡機器の市場成長率を当社では想定しています。

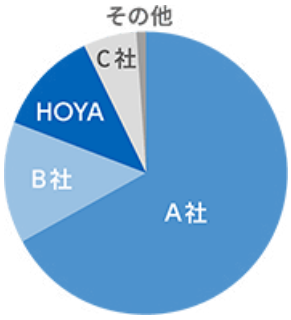
PENTAX Medical ONE Pulmo

HOYAのポジションと市場シェア

高画質化、超音波内視鏡、画質・外径・チャンネルサイズのバランスの取れた細径内視鏡、公衆衛生に配慮した製品を強みに、当社は業界2番手グループとなっています。

地域的には、売上の約半分を占める欧州において安定的に収益を確保しつつ、アジア、米州での営業活動を強化することで成長を図ります。

市場シェア（2021年度）



（当社推計、金額ベース）

製品に関しては、軟性内視鏡市場の主戦場である消化器向け製品への取り組みを着実に行いながら、内視鏡と組み合わせて使用する処置具や、使い捨て内視鏡のさらなる開発を進め、差別化を図っていきます。
使い捨て内視鏡は、2021年5月に当社初となる使い捨て気管支内視鏡「PENTAX Medical ONE Pulmo」のCEマーク認証を欧州にて取得しました。今後欧州での販売を拡大するとともに他地域での承認を取得していきます。当社は目的や状況に応じて従来型と使い捨ての使い分けを提案できることや、使い捨て内視鏡にも従来型同等の高画質、吸引力と操作性を実現していることが強みです。使い捨て内視鏡は現状では従来型の内視鏡を大きく置き換えるほどの存在には至っていませんが、中長期的には存在感が高まってくると予想しており、その布石として位置づけています。

白内障用眼内レンズ

事業内容

白内障用眼内レンズ（IOL）および眼科医療器具の研究開発・製造・販売をおこなっています。

約35年にわたる眼内レンズの開発と製造にもとづいて、HOYA Surgical Opticsは数百万人に及ぶ白内障に苦しむ患者様の視力とQuality of Lifeの改善に貢献する事をミッションとしています。

白内障は加齢により高い確率で発生し、世界において最大の失明要因となっています。白内障は手術により治療する事が可能で、世界で最も多く実施されている手術の一つです。白内障手術により、白濁した水晶体を取り出し、代わりに眼内レンズを挿入します。

Vivinex™

HOYAの強みである光学技術と眼内レンズ・インジェクター開発の知見を組み合わせたプリロード式眼内レンズ※はグローバル市場で高い評価を得ています。この製品カテゴリー（プリロード式眼内レンズ）においてはグローバル市場でトップシェアを有しています。

※プリロード式とは、眼内レンズがインジェクターの中にあらかじめ設置されており、術者による、より安全で確実な手術が可能となります。

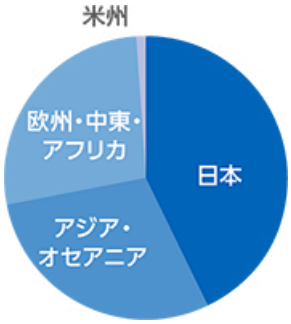
 Copyright ©2021 HOYA GROUP

サプライチェーン

地域別売上高

売上高を地域別に見ると、日本国内での売上が約半分となっています。

HOYA Surgical Optics
地域別売上高構成比（2021年度）

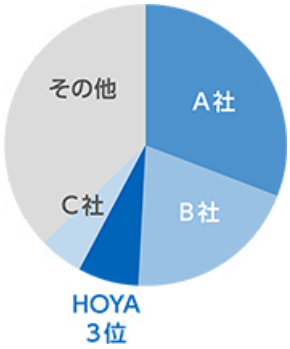


マーケット状況

世界的な高齢化、新興国での医療インフラの普及、先端医療技術へのアクセシビリティの向上などを背景に市場は年7%程度の成長を続けており、多焦点や焦点深度が深いタイプの眼内レンズなどのハイエンド製品が市場の成長をけん引しています。

2021年度は国・地域により違いはあるものの新型コロナウイルス影響からの回復が進みました。今後は回復の遅れている日本において白内障手術件数が回復し、成長軌道への回帰を想定しています。

市場シェア（2021年度）



（当社推計、金額ベース）

HOYAのポジションと市場シェア

当社は主力製品であるVivinex™（2015年に上市）の製品競争力により、市場を上回るペースで成長を続けています。Vivinex™は透見性の高いレンズ素材と独自技術を兼ね備えたインジェクターmultiSert™を組み合わせた製品で、安全で確実な白内障手術を可能にするソリューションを提供しています。

市場シェアは順調に拡大しており、現状はグローバルで3位となっています。

HOYA今後の見通し

今後はさらに収益性の高い老視矯正眼内レンズ市場向けの三焦点眼内レンズの販売を拡大することで、顧客のニーズや期待に包括的に応えていきます。

また、既に営業拠点のある地域の営業人員の強化や、直接/間接（販売代理店との協業）問わず新たな地域に順次参入することで顧客へのリーチを拡大し、売上拡大を図ります。今後マーケット拡大が見込まれる中国においては、2020年5月に販売代理店のGeMax社と合弁会社を設立し、売上増に大きく寄与しています。

人工骨・金属製整形インプラント・クロマトグラフィ用担体

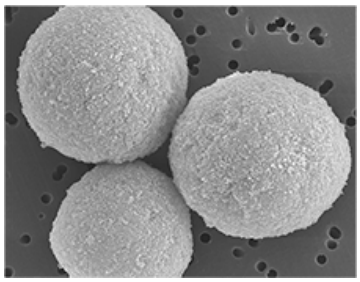
事業内容

骨の欠損部の補填や、骨折部の接合に使われるセラミック製および金属製のインプラントや、バイオ医薬品の開発・製造や細胞培養に使われるバイオセラミックスを取り扱っています。
インプラントは主に日本国内の医療機関に向けて、クロマトグラフィ用バイオセラミックス担体はディストリビュータにより世界中の製薬企業や研究機関に向けて販売されています。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

バイオアクティブセラミック製インプラント「バイオペックス」

金属製整形外科用インプラント「HTS Stellar D」



クロマトグラフィ用担体（拡大画像）

マーケット状況、HOYAのポジションと市場シェア

日本における脳神経・脊椎脊髄外科向け、整形外科向けのインプラント市場は高齢化の進展により、一桁前半の成長率が見込まれています。脊椎脊髄末梢神経外科向けインプラント市場において、当社は日本で初めて人間の骨とほぼ同成分を持つアパタイト製品を製造・販売したことから市場をリードしています。整形外科向けインプラントに関しては、当社は2012年に日本ユニテックとの経営統合により参入しました。日本人の骨格に最適な形状や大きさの金属インプラントの製造・販売を行っています。

バイオ医薬品の開発・製造に使われる分離・精製用担体（クロマトグラフィ用担体）市場は、バイオ医薬品市場の拡大により、今後グローバルで約10%の成長率が見込まれています。分離・精製方法の違いに応じて異なる担体が使われますが、当社の球形ハイドロキシアパタイトセラミックス担体は、各種タンパク質に極めて高い吸着特性を有しており、バイオ医薬品の精製プロセスにおいて、不純物除去性能の高さと分離性能の良さを強みとして市場にユニークな製品を提供しています。

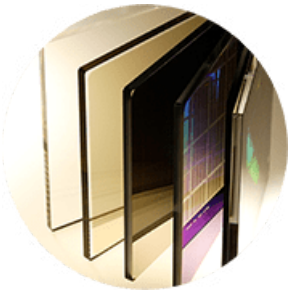
今後の見通し

製品ラインナップの拡充、新たな用途の開拓、営業力の強化により成長を加速させていきます。 インプラントにおいてはセラミックでの現状のポジションを維持し、さらに新たな用途の開拓による市場の拡大を図り、金属では製品ラインナップの拡充や営業力の強化によりシェアを拡大することで、インプラント全体としての成長加速を図ります。クロマトグラフィ用バイオセラミックス担体は、抗体医薬、ワクチン、さらには遺伝子治療など多様化するバイオ医薬品のニーズに対応するため、顧客や研究機関と協力して、製品・精製プロセス開発を加速させるとともに、増加する需要に対応するため生産能力を拡大することで、さらなる成長を図ります。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

エレクトロニクス関連製品

半導体用ブランクス



事業内容

半導体用ブランクスの研究開発・製造・販売をおこなっています。

半導体の製造工程において必要不可欠なフォトマスクは、半導体の微細で複雑な回路パターンを半導体ウエハに転写する際の原版となるもので、マスクブランクスはフォトマスクのベースとなる部材です。

マスクブランクスは回路パターンごとに作られるため、半導体メーカーやファウンドリなどの顧客による新製品の開発、EUV（極端紫外線）露光などの新しい製造技術の研究開発においても必要とされます。

サプライチェーン

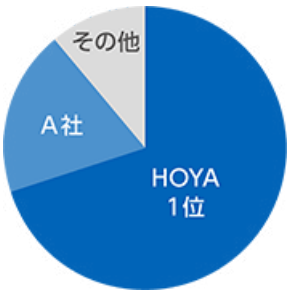
※フォトマスクメーカーを経由する場合もあります。

マーケット状況

2021年は、エレクトロニクス市場では、PC、スマートフォン、サーバーなど主要な最終製品の出荷が増加しました。これにより半導体市場はロジックやメモリ、アナログ半導体等の需要が増加したことで全体として26%の成長となりました。2022年もロジックやメモリ、アナログ半導体等がけん引し、16%の成長を見込んでいます。(WSTS推定)

ブランクス市場に関しては、半導体メーカー、ファウンドリによる、最先端の製造技術であるEUV露光を使った、電子回路のさらなる微細化に向けた研究開発活動が活発におこなわれており、ブランクスは顧客の研究開発需要が重要なドライバーであることから、今後も市場の成長が見込まれています。

市場シェア（オプティカル）
（2021年度）



（当社推計、金額ベース）

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

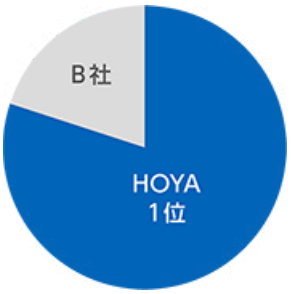
HOYAのポジションと市場シェア

当社の強みである、半導体のパフォーマンス向上をリードするポジションを活かし、高い市場シェアを長期にわたって保持しています。

中でもEUVブランクスは、既に20年近く研究開発活動を続けており、業界のリーダーとしての位置を築くことができています。

また、EUVとオプティカル（EUVではない既存の露光技術）の両製品を展開する唯一のメーカーとしてプレゼンスがいっそう高まっています。

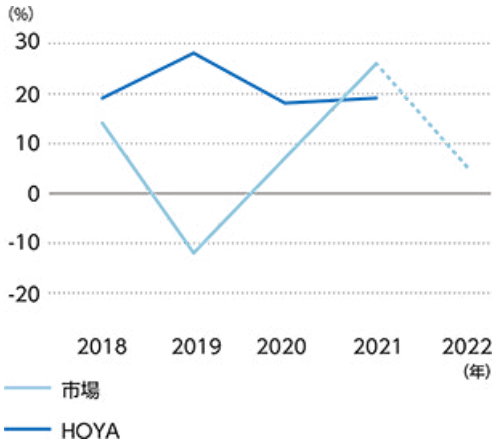
市場シェア（EUV）
（2021年度）



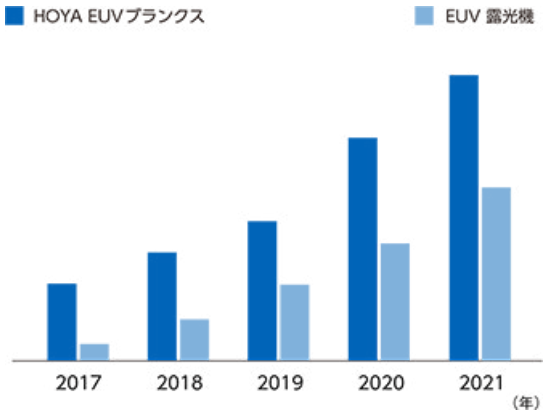
HOYA今後の見通し

半導体の微細化の進展に伴い、今後もEUV向けマスクブランクスの強い需要が継続すると見ています。

半導体市場・HOYAブランクス事業成長率



HOYA EUV ブランクス売上・EUV露光機売上累計（数量）



出典：WSTS

マスクブランクスの売上は、顧客の開発スピードに応じて大きく変化し、また消耗品ではないため、半導体産業全体の動きに連動せず、精緻な予測が困難ですが、EUV向けについては、EUV露光機の累計設置台数をEUV市場成長の一つの目安とみています。

当社は顧客の需要に対応するため、製造ラインの増設を適宜行っています。EUV向け製造ラインに関しては2020年に追加し、2022年以降、追加投資によるさらなる製造能力の拡充を予定しています。今後も増加する需要に対応するため、タイムリーに増産投資をおこなっていきます。

また、さらなる微細化のために2025年以降に製造への使用が予定されているHigh-NA EUV露光機（次世代EUV露光機）では、斜めに入射した光がフォトマスクの吸収体によりさえぎられることで、ウエハに転写されるパターンが変形してしまう３Ｄマスク効果が課題となっています。これを解決するために吸収体の薄型化のための開発を、半導体製造サプライチェーン内のパートナーと進めています。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

FPD用フォトマスク

事業内容

LCD[*1]やOLED[*2]など FPD[*3]の製造に用いるフォトマスクの研究開発・製造・販売をおこなっています。

FPDフォトマスクは、TV、スマートフォン、ノートPCなど向けのFPD製造時に、回路パターンを基板に転写するための原版として使われます。

*1 LCD：Liquid Crystal Display=液晶ディスプレイ
*2 OLED：Organic Light-Emitting Diode=有機EL
*3 FPD ： Flat Panel Display=フラットパネルディスプレイ，薄型ディスプレイ

サプライチェーン

HOYAは、原材料メーカーから基板を仕入れ、基板に対して研磨・成膜・レジスト塗布をおこないます（ブランクス 製造）。完成したブランクスに回路パターンの描画・現像・エッチング・レジスト剥離洗浄をおこない、パネルメー カーに出荷します。（フォトマスク製造）

用途別売上高構成比

用途別売上高構成比（2021年度）

用途別の売上高構成比は次の通りです。
スマートフォン向けが最も大きな割合を占めていますが、車載やウェラブル向けなど新しい用途が増加しています。

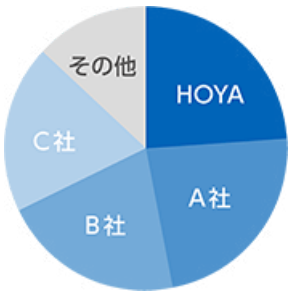
マーケット状況

2021年度においては、パネルの価格が落ち着いてきたことにともない、パネルメーカーは新たな需要喚起のために研究開発活動を活発化させました。これによりフォトマスクの研究開発需要が増加し、市場は拡大しました。

今後については、スマートフォンなどに使われる中小型OLED向けの需要の増加などで市場がゆるやかに成長するとみています。地域的には中国市場の成長を見込んでいます。

HOYAのポジションと市場シェア

市場シェア（2021年度）



（当社推計、金額ベース）

当社は高精度品に強みがあり、トップクラスのシェアを持っています。

HOYA今後の見通し

今後も成長が見込まれている第6世代（Gen. 6）の高精度品、地域的には中国市場に注力することで、堅調な事業の成長を図ります。

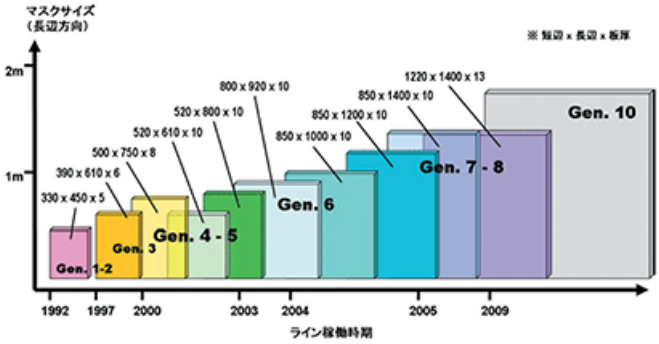
なお、当社は2021年10月に、中国市場におけるFPDフォトマスクの生産能力を増強すべく、中国の主要なパネルメーカーであるBOEグループと合弁契約

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

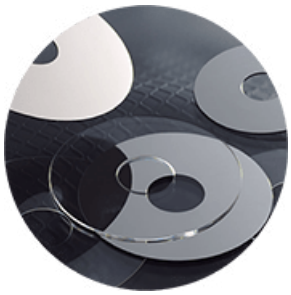
を締結し、中国において合弁会社を設立することを決定いたしました。
（当該合弁会社の設立は、各種付随契約の締結ならびに中国を含む各国における法規制上のクリアランスなどの完了後となります。）

パネルの世代について

FPD（LCD,OLEDなど）の製造ラインは、マザーガラスの大きさによって世代（Gen.）別に分類されています。テレビの大画面化の進展や、フォトマスク1枚あたりのパネル配置数増加による生産性向上のために、マザーガラスの大型化が年々進んでいますが、当社の得意とするGen.6を中心とした中小型パネルについても主にスマートフォン向けのOLED需要がけん引し今後も堅調な成長が期待されます。



HDD用ガラスサブストレート



事業内容

HDD（Hard Disc Drive）ガラス基板の研究開発・製造・販売をおこなっています。HDDはサーバやPCの内部ストレージ、及びPCやTVの外付けHDDとして使われています。

データセンターサーバー向けの3.5インチは2017年の本格参入以来、高成長を 続けており、2021年度には金額ベースで事業部門売上高の60%を占めるまでになりました。

サプライチェーン

HOYAは、原材料メーカーから基板原材料を仕入れ、これに対して円盤形加工・強化・研磨などをおこない出荷します（基板製造）。
メディアメーカーは、基板に対して磁性膜などの製膜、バーニッシュ（仕上研磨）などをおこない出荷します（メディア製造*）。
HDDメーカーは、ハードディスクやヘッドなどの部材の組立、完成品テストをおこない出荷します。

*メディア製造は主にHDDメーカーによって行われています。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

最終製品

当社の3.5インチ基板は、主としてデータセンターにおいてバックアップなどに用 いられるニアラインストレージに使われています。
売上は順調に拡大しており、2021年度では事業部門売上収益の約60%となりました。

マーケット状況

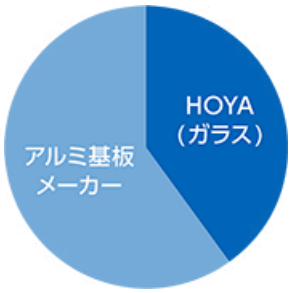
3.5インチHDD市場は、バックアップ用途で比較的アクセス頻度が少ないニアラインストレージでは、SSDに対して価格優位性のあるHDDが使われています。大規模クラウドサービスの事業者によるデータセンター関連への投資は短期的には変動があるものの、中長期的には世の中のデータ生成量拡大に伴い、継続的な市場の拡大が見込まれています。

2.5インチHDD市場は、外付けHDD 、ノートPC、ミッションクリティカルサーバー領域において、データの読み込み/書き込み速度が速いSSDへの置き換えが進んでおり縮小しています。2021年度は新型コロナウイルスの影響により2.5インチHDD需要が比較的高かったことで市場全体の縮小が鈍化しました。在宅勤務や自宅学習によるPCの高需要が継続し、PC用HDDや外付けHDDの需要が高かったことと前年落ち込んだオンプレミスの支出が回復したことでサーバー用HDD需要も高かったことによるものと推測しています。

HOYAのポジションと市場シェア

現在、2.5インチ基板はすべてガラス製となっています。当社は唯一のガラス基板メーカーとして、HDD業界を縁の下から支えています。
3.5インチ基板は、価格面で優位なアルミニウム素材がすべてを占めていましたが、高剛性で基板の薄型化による多枚数化を可能とする当社のガラス基板のHDDへの採用が進み、ニアラインサーバーにおいてシェアを40%まで高めることができました。HDDの大容量化の進展によりさらなるシェアの拡大を見込んでいます。

ニアライン向け3.5インチ基板
市場シェア（2021年度）



（当社推計、数量ベース）

HOYA今後の見通し

3.5インチ基板においては、継続的な市場の拡大により売上の成長を見込んでいます。中期的には、新たな顧客の獲得により成長の加速を見込んでおり、既存製造設備の転換やラオス新工場を活用することで、需要の増加に対応していきます。

3.5インチ市場におけるガラス基板の可能性

世界で生成されるデータ量と保存量の拡大に対応するため、HDDメーカーは1台あたりのデータ容量がより大きい製品を継続的に市場に投入しています。HDD1台あたりのデータ容量増加は、ディスクの記録密度と面積の増大により実現されてきましたが、現状は記録密度向上技術の開発が停滞しており、記録面積の拡大が容量増加のカギとなっています。

3.5インチ市場では、現在はディスクの素材は主にアルミニウム合金ですが、さらなる記録面積の増加は、ディスクの薄型化により搭載ディスク枚数を増加させることで実現されるため、アルミニウム合金よりも剛性があり薄型化の可能なガラスが必要とされています。

将来的に1つのHDDに搭載するディスクの枚数が11枚となった場合は基板の厚みは0.5mm以下になることが見込まれております。また基板の厚みが0.5mm以下となった場合はアルミ基板の生産性が低下することが予想され、2024年以降はニアライン向け基板が不足するものと見込んでいます。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

さらに、記録密度向上のための次世代記録方式であるHAMR（Heat Assisted Magnetic Recording）が実現し製品化された場合、同技術は磁性膜の製造プロセスで高温を必要とするため、耐熱性の高いガラス基板が唯一の選択肢となります（アルミニウム 合金の耐熱温度は290度に対してガラスは691度）。

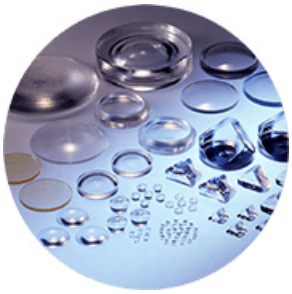
2.5インチ基板製品においては、外付けHDDやPC、ミッションクリティカルサーバーでHDDからSSDへの置き換えが今後も進み、減少を見込んでいますが、3.5インチ基板製品の売上増で吸収し、事業全体として成長を図ります。

映像

映像関連製品（光学ガラス材料・光学レンズ・各種レーザー機器など）

事業内容

各種カメラ用の光学ガラス材料と光学レンズの研究開発・製造・販売をおこなっています。



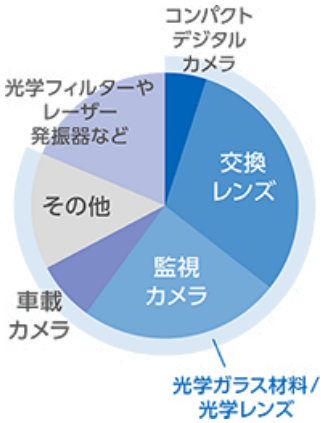
サプライチェーン

HOYAは、光学ガラス原料メーカーから原料を仕入れ、調合、溶解を行い、レンズ材料やレンズ製品を製造し、レンズメーカーやカメラメーカーに出荷します。

用途別売上高構成比

用途別の売上高構成比は右の通りです。
コンパクトデジタルカメラ向けや交換レンズ向けなど、以前は売上の大部分を占めたデジタルカメラ関連は減少傾向にあり、売上高構成比は約40%になりました。

用途別売上高構成比（2021年度）



ガラス非球面モールドレンズシェア
（デジタルカメラ関連において）
（2020年度）

マーケット状況

一眼レフ、ミラーレス用交換レンズ出荷額はハイエンドカメラ向け新製品の販売増や、新型コロナウイルスにより販売に影響を受けた前年からの回復が進んだことで、大きく増加しました。

HOYAのポジションと市場シェア

光学ガラス組成の研究開発から、レンズ完成品の製造に至るまでを一貫

 Copyright ©2021 HOYA GROUP

して手掛け、多品種大量生産を可能とする体制を整えています。

当社は、ガラス非球面モールドレンズ（GMO）に関して強みを持ち、高いシェアを維持しています。

GMOは、高温で軟化させた光学ガラスを直接プレス成形し、研磨を行わずに光学レンズ製品にするものです。収差補正に優れているため、光学系に使用するレンズ枚数を減少させ、最終製品であるカメラの小型軽量化・高機能化に貢献しています。

（当社推計、金額ベース）

HOYA今後の見通し

レンズ交換式カメラ向けはハイエンドカメラの販売増などで、以前ほどの大幅な減少は想定していません。
車載カメラ向けなど新しい用途向けの光学製品の販売を着実に拡大させ、事業全体の安定化を図っていきます。

新しい用途向けとしては、先進運転支援システム（Advanced Driver-Assistance System: ADAS）、モバイル機器向け光学ズームやAR・MRでの当社製品の採用に向けて営業活動を強化しています。なかでもADASに使われる画像認識用の車載カメラ市場でのポテンシャルに期待しており、同技術が本格的に実用化される数年先での当社業績への本格的な貢献を見込んでいます。

 Copyright ©2021 HOYA GROUP